

業績ハイライト

平成30年9月中間期の決算

平成30年9月中間期(平成30年4月1日～平成30年9月30日)の決算につきまして経常収益は、貸出金残高の増加を主因として貸出金利息収入が前年同期比増加したことや、株式売却益の増加を主因にその他経常収益が増加したこと等から、前年同期比31億58百万円増加の205億46百万円となりました。

経常費用は、株式売却益を原資とする有価証券のポートフォリオ再構築に伴うその他業務費用が増加したこと、また、貸倒引当金が戻入から繰入へ転じたことでその他経常費用が増加したこと等から、前年同期比32億3百万円増加し、185億46百万円となりました。

この結果、経常利益は前年同期比44百万円減少の20億0百万円、中間純利益につきましては前年同期比3億94百万円減少の17億28百万円となりました。

預金・貸出金等の状況

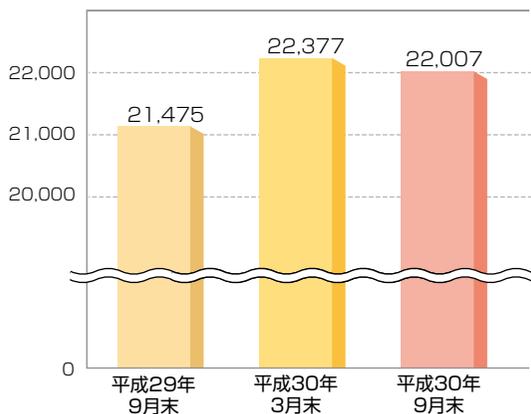
平成30年9月末の総預金残高は2兆2,007億円となり、前年同期比531億円増加、平成30年3月末比370億円減少しました。また、個人預かり金融資産残高は3,117億円となり、前年同期比55億円増加、平成30年3月末比34億円増加しました。

平成30年9月末の総貸出金残高は1兆6,522億円となり、前年同期比1,749億円増加、平成30年3月末比1,369億円増加しました。

(注)個人預かり金融資産残高は、投資信託、生命保険、公共債の合計であり、外貨預金は含んでおりません。

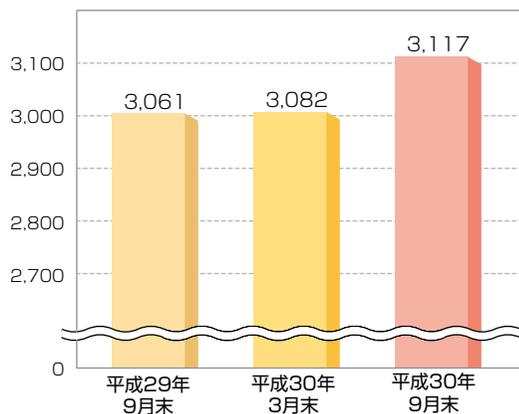
■預金残高

(単位: 億円)



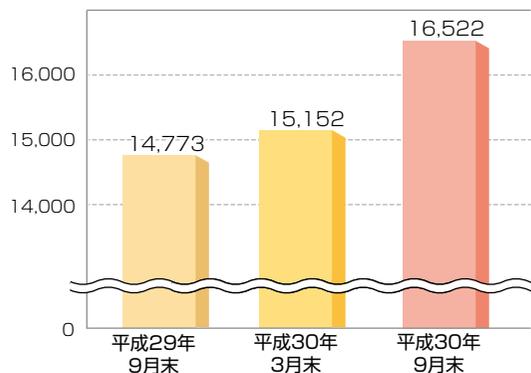
■個人預かり金融資産残高

(単位: 億円)



■貸出金残高

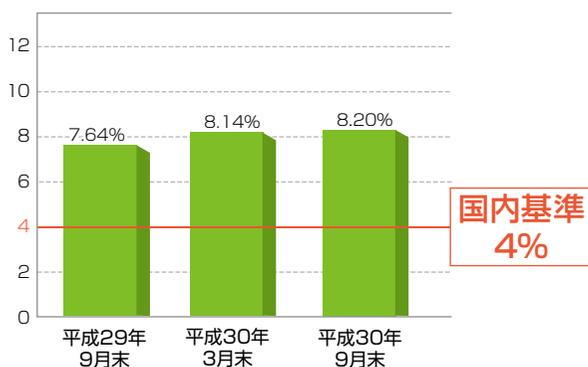
(単位: 億円)



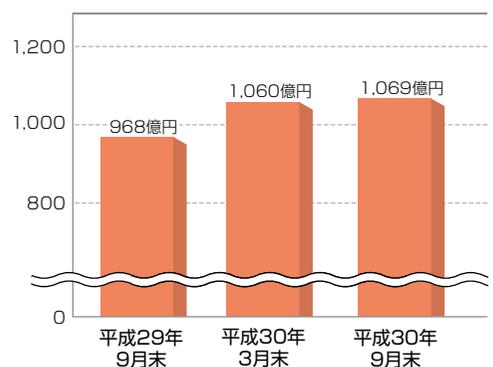
自己資本比率

- 平成30年9月末の自己資本比率(国内基準)は、中小企業向けの貸出金増加によるリスクアセットの増加や劣後ローンの返済による自己資本の減少がありました。他方で利益の積み上げによる自己資本の増加があったことにより、前年同期比0.56%ポイント、平成30年3月末比0.06%ポイントそれぞれ増加し8.20%となりました。

■自己資本比率(国内基準)



■自己資本額(国内基準)



不良債権の状況

- 債権総額中に占める金融再生法開示債権(いわゆる不良債権)の比率は、平成30年3月末の2.12%が平成30年9月末には2.08%となりました。
- なお、当行は部分直接償却を行っておりませんが、部分直接償却を行った場合のこの比率をみますと、平成30年9月末で1.84%(平成30年3月末では1.91%)となっております。

■平成30年9月末の不良債権の状況

